

⑩



⑪



各塔についてひとこと

- ① 以前は門前の大沼田用水脇にあった。
- ② 角柱の上に笠石が置かれている。正面の銘文は「百番供養塔」。右側面には「石橋造立供養」とある。
- ③ 角柱の上に石仏が載っている。石仏は風化が進む。
- ④ 野中新田内の「塞ぎ」を合わせての祈願か。
- ⑤ 上の③左側に並んで立つ。個人が造立したもの。
- ⑥ 高さが145cmと市内では最も大きい。玉川上水に架けた石橋の供養塔。道しるべや方位塔も兼ねる。
- ⑦ 左から馬頭観音塔、中央の庚申塔と並んで立つ。



- ⑧ 水路脇にひっそり立つ。下部は埋まり一部判読不能。
- ⑨ 付近が最近開発され、環境が大きく変化する。
- ⑩ 庚申塔と「橋供養」を兼ねる。大正期に造立された馬頭観音塔と並んで鈴木用水路のすぐ脇に立つ。
- ⑪ 現在は小金井市内の「江戸東京たてももの園」内に立つが、元は小平村内の野中新田か鈴木新田にあった。

石橋供養塔とは・・・

小平市内を流れる玉川上水やその分水路の橋のためなどに今でも石橋供養塔が残る。何れも江戸後期に建てられたもので、一部は道路・水路の拡幅や改修に伴って移設されているものもある。

これらの石橋供養塔は木橋を石橋に架け替えた時や、新たに石橋を架けたときなどに記念碑として造立された。更には常に人馬に踏まれる石橋が、長持ちするように祈願し、それを供養する意味や、橋を渡って村内に疫病や災いが入り込むのを防ぐ「塞ぎ」の意味もあるとも伝えられる。この他に道標（道しるべ）を兼ねるものも見られる。また、単に「橋供養」といった塔もある。

「塞ぎ」の神を祀った供養塔には二ヶ所とか四ヶ所供養塔などあり、村内に設置された複数の橋に対しその役割を託しており、願主として僧侶の名が見られるものが多い。この他に、六十六部供養塔や百番供養塔、馬頭観音や庚申塔などを習合した塔も見られる。

市内に残る供養塔は何れも石柱型であるが他の地域では自然石型や石仏型なども見られる。

個人が建立したものもあるが、多くは願主、施主、世話人、助力した講中や村中名など関係者の名が刻まれているものが多い。僧侶等が願主となり世話人が名を連れ、講や村民が助力して建立したものと思える。

豆知識

六十六部供養塔と百番供養塔

六十六部供養とは釈迦が亡くなってから56億7000年後に弥勒菩薩が現れ衆生を救ってくれるときまで、法華経を保存する目的で全国六十六カ所の霊場に納経して回ることをいう。江戸時代の庶民の間に念仏を唱えながら、全国の霊場を巡って法華経を各所で奉納、満願の時に「六十六部供養塔」や「回国供養塔」という供養塔を建てた。

百番供養塔とは江戸時代に、西国三十三ヶ所・坂東三十三ヶ所・秩父三十四ヶ所を巡礼してきた人達が満願を記念して建てたとされる。単に本人の記念ということではなく、自ら得た功德を他者にも施すという意味もある。

玉川上水ワンポイントガイド No.20

小平市内の石橋供養塔めぐり



用水路脇にひっそりと160年・・・⑧

シリーズ 玉川上水ワンポイントガイド

1. 玉川上水の概要
2. 玉川上水の分水
3. 玉川上水の分水・小平編
4. 玉川上水と小平周辺の新田開発
5. 玉川上水の橋
6. 玉川上水の水車
7. 玉川上水の通船・船溜り
8. 玉川上水の樹木・野草・野鳥
9. 玉川上水と小金井サクラ
10. 玉川上水あれこれ
11. 玉川上水お勧め散歩ガイド
12. 玉川上水散歩ガイド 玉川上水駅から一橋学園駅
13. 玉川上水散歩ガイド 一橋学園駅から三鷹駅
14. 玉川上水散歩ガイド 羽村駅から拝島駅
15. 玉川上水散歩ガイド 拝島駅から玉川上水駅
16. 玉川上水散歩ガイド 三鷹駅から富士見台駅
17. 玉川上水散歩ガイド 富士見台駅から代田橋駅
18. 玉川上水散歩ガイド 代田橋駅から新宿御苑駅
19. 小平市内の用水分岐水門・分岐口めぐり
20. 小平市内の石橋供養塔めぐり

2007.4月No.1から順次発行、2009.4月No.14から順次発行

発行 小平・玉川上水再々発見の会
E-mail tamagawasaisai@yahoo.co.jp
代表 庄司徳治

小平市内に残る石橋供養塔 (年代順)			
1.	六十六部西石橋供養塔	明和六年 (1769)	泉蔵院内本堂手前左側
2.	百番供養塔(石橋供養)	寛政三年 (1791)	上鈴木不動尊内
3.	石橋二ヶ所供養塔	寛政十二年 (1800)	回田中通り入り口
4.	石橋四ヶ所供養塔	文化五年 (1808)	円成院内本堂東側奥
5.	石橋供養塔	文化十三年 (1816)	回田中通り入り口 3の隣り
6.	石橋供養塔	天保十三年 (1842)	小川橋上流側左岸
7.	石橋供養塔	天保十五年 (1844)	五日市街道旧道(いろりの里西)
8.	石橋供養塔	弘化四年 (1847)	富士見通り東(小川町1-2251)
9.	石橋供養塔	安政六年 (1859)	回田通り(喜平図書館南東)
10.	* 庚申供養橋塔	安永二年 (1773)	鈴木西通り西側(宝寿院東)
11.	石橋三ヶ所供養塔	文化元年 (1803)	江戸東京たてもの園(元市内に有)

「小平の石造物」小平市教育委員会編 参照

小平市内に残る石橋供養塔めぐり



原図 小平市用水路活用計画から

